

[平成29(2017)年3月20日]

日本経済新聞

心筋梗塞の原因
6番目の遺伝子

三重大学チーム特定

三重大学の山田芳司教授(ゲノム医学)らの研究グループは19日までに、DNAの構造がわずかに異なる「多型」があることにより、心筋梗塞が約3倍発症しやすくなる遺伝子を新たに特定したと発表した。

心筋梗塞は生活習慣や環境のほか、遺伝的な要因が大きく関係しているとされる。山田教授らが見つけた心筋梗塞の発症を高める同様の遺伝子は6種類目となる。

同じ遺伝子でも、人によってDNAを構成する塩基の配列がわずかに違う多型という部分がある。グループは、心筋梗塞の既往歴のある2438人と、既往歴のない9210人の血液を採取し、遺伝子のタンパク質の構成に関わる部分を詳細に解析。発症に関係するとみられる遺伝子の多型を見つけた。